

(様式 1)

令和 6 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立外手小学校
校長名	柿沼 広美

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・目標値を上回ったものは、51 観点中 47 観点で、全体の 92.1%であった。・目標値より上回った 48 観点中、5 P 以上は 30 観点であり、全体の 62.5%であった。・国語と算数における 30 観点中、目標値より 5 P 以上上回ったものは 24 観点であり、全体の 80%であった。・昨年度と比較すると、全国平均を上回った項目が多く、一部の観点を除いては全体的に学力がさらに高まったと言える。	<ul style="list-style-type: none">・目標値を下回ったものが、4 観点（6 年の社会 1 観点、算数 1 観点、理科 2 観点）であり、全体の 7.8%であった。・社会と理科における 18 観点中、目標値より 5 P 以上上回ったものは 4 観点であり、27.7%であった。・6 年理科「知識・理解」については目標値を 8 P 下回っていたため、確実な習得を目指して進学につなげたい。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全項目の学年の平均値は、1 つの学年（4 年生）を除いて全国値を上回った。・「学級の規範意識」「学習意欲」の項目は全学年が全国値と同程度もしくは上回っていた。・6 年生は人間関係を良好に捉えている一方で、学習習慣のみが全国値を下回っていた。	<ul style="list-style-type: none">・「対話・話し合い」「学級の規範意識」について、1 つの学年（4 年生）が全国値を下回っていた。特に前者は 5 P 近く低かった。・「学習意欲」については、2 つの学年（4・5 年生）が全国値を下回っていた。・「発信力」は 3 つの学年（2・4・5 年生）が全国値を下回っていた。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査（6 年生）において、国語 2 観点、算数 2 観点全ての観点で全国平均を 5 ポイント以上（5～14.1）上回った。・図書館を使った調べる学習コンクールには、3・4・5 年生が出前授業を受け、そのほぼ全員が取り組んだ。	<ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査（6 年生）において、観点別・問題形式で比較すると、両方の教科において「思考・判断・表現」かつ「記述式」の無回答率が高かった。ただし、正答率は全国平均と比較して高く、2 極化が考えられる。・図書館を使った調べる学習コンクール作品については、研究内容に大きく偏りがある。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学力調査の分析と授業改善への活用

① 課題の明確化と学力向上プランの作成

学年・教科ごとの強みと弱み、傾向を把握し、学力低下の原因となる要素を明確にし、学力向上プランを作成する。さらに、重要度や緊急度に応じて優先順位をつけて改善のための取り組みを計画する。

② 指導法の改善

児童の理解度に合わせて、効果的な指導法を行う。教材や授業展開、課題等、児童の学びやすさを考慮したアプローチを取り入れる。めあて・まとめ、インプット・アウトプットを毎時間行う。「指導のポイント」等も活用やグループワークや探究学習などのアクティブラーニングも推進する。

③ P C D Aサイクルの確立

明らかになった課題に対し、学年や教科ごとの短期的・長期的に計画、実行、評価、改善を実施する。

(2) 個別学習支援の充実とICT機器の活用

① 個別学習支援の充実とフィードバックの強化

児童の学習への取り組み方に対して定期的にフィードバックを行い、児童の改善点を指導する。また、学力の向上が特に必要な児童に対し、個人学習プロフィールを作成し、指導に生かす。

② 保護者との連携強化

学習状況調査の結果や学力向上のための取り組みについて保護者と情報共有する。学校と家庭が協力して児童を支えていく体制を整え、家庭学習の習慣化と継続を推進する。宿題では「ふりかえりシート」や「問題データベース」、「よむYOMUワークシート」等を活用する。

③ ICTの活用

タブレット端末や新しく導入された電子黒板、デジタル教科書などのICT機器を活用した授業を行い、児童の学習意欲・主体的な学習態度を喚起し、児童の理解を促す。

(3) 教師間の協力と専門性の向上

① 墨田区教育委員会特色ある学校づくり推進校としての取り組みと研究の推進

研究推進委員会が中心となる校内授業研究会の授業研究を行い、教員が相互に協力して授業改善や教育技術の向上を図り、指導力の向上に努める。また、専門家から最新の教育理論を学ぶ。

② 教師間のコミュニケーション促進

月に1回の各種委員会やOJTで授業改善の進捗状況や問題点、環境整備等について話し合う。また、校内で校務支援ツールを活用し、教材や指導法についての情報を共有し、引き継いでいく。

3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・目標値に対して、51の全ての観点で上回るようにする。また、5P以上上回るものを、51観点中36観点以上（70%以上）で達成するようにする。
- ・特に理科・社会の学力向上に努める。18観点中、9観点を目標値5P以上を目指す。